

東京大学名誉教授 和田春樹さん 「誠実な謝罪」こそが必要



東京大学名誉教授

和田 春樹 さん

金学順さんの家を訪ねたのは1996年のことでした。私は当時、「慰安婦」犠牲者に「謝罪と償い」を届ける政府設立の財団法人「アジア女性基金」の呼びかけ人として、事業の説明に行ったのです。金学順ハルモ二（おばあさん）は毅然（きぜん）とした威厳のある方でした。「償い金」を政府が支出しないのは謝罪の姿勢が明確ではないからだと考えておられ、基金の事業を受け取らないと断られました。私はわかりましたと言って、帰ってきました。被害者が求めるのは「誠実な謝罪と償い」なのです。

2015年の日韓合意は、当時の安倍晋三首相が「最終的かつ不可逆的な解決」だただけ強調したので、韓国の世論の強い反発をうけてしまいました。「政府の責任を痛感して」「被害者全てにおわびと反省を表明する」という合意の核心部分が今日まで被害者には伝えられていないのです。政府のお金を被害者に直接出す点は、政府のこれまでの措置を超える前進でした。日韓の市民と政府が長年もみあって得た成果なのです。

「慰安婦」問題の解決には、これまでの努力を生かす行動が不可欠です。しかし、菅政権は「河野談話」を継承すると言うだけで、日韓合意を生かして前に進む気がありません。“悪いのは条約と合意を守らない韓国側だ”“自分で解決する案を持ってこい”という姿勢はあまりに尊大です。

菅首相は15年の合意を再確認し、安倍前首相の謝罪を文書にして、被害者に届けるべきです。日本、韓国は永遠に協力しなければならない関係です。植民地支配に対する謝罪の気持ちを持ち続けなければ、本当の意味での協力はできません。

